

平成25年度

運営に関する計画・自己評価 最終反省

大阪市立緑中学校

1 学校運営の中期目標

【視点 学力の向上】

○平成27年度の全国学力・学習状況調査における国語・数学の平均正答率を、全国平均並みに維持する。(カリキュラム改革関連)

○平成27年度の全国学力・学習状況調査における家庭での学習に関する設問で、学校の宿題達成率を全国平均に近づける。(マネジメント改革関連)

○平成27年度の全国学力・学習状況調査における授業において、「自分の考えを発表したり」「感想文や説明文を書く」機会を与えられ、そのおかげで、「自分の考えを他の人に説明したり、文章にする」という質問の肯定的回答率を全国平均に近づける。(カリキュラム改革関連)

○平成27年度の全国学力・学習状況調査の読み取り問題においては、読書の時間の確保により、考える力を高めさせ、考えを周りに発表する力を全国平均に近づける。(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

○平成27年度の全国学力・学習状況調査における豊かな心に関して「いじめはいけないことである」や「人の役に立ちたい」・「人の気持ちをわかりたい」を全国レベルに高め、「学校の規則は守る」生徒の全国平均レベルを維持する。(マネジメント改革関連)

○平成25～27年度末の校内調査において学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。(マネジメント改革関連)

○平成27年度の生徒アンケートで本校から体罰をなくし、大阪の教育のモデルとなる活動を行い、活気ある学校を創りあげる。(マネジメント改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

○平成27年度の全国学力・学習状況調査における「寝る時間が遅く起きる時間も遅い」「睡眠時間の短い生徒」の肯定的回答率を全国平均値にする。(カリキュラム改革関連)

○平成27年度の「全国体力・運動能力、運動習慣調査」の合計得点において、全国平均点以上を維持する。(カリキュラム改革関連)

○平成27年度の各種検診後の受診率を上げる。視力検査の受診率、耳鼻科検診の受診率ともに30%以上にする。(マネジメント改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

○平成25年度の全国学力・学習状況調査における国語・数学の平均正答率を全国平均並みに維持する。(カリキュラム改革関連)

○平成25年度の全国学力・学習状況調査における家庭での学習に関する設問で、学校の宿題達成率を5ポイント上げる。(マネジメント改革関連)

○25年度は授業において、「自分の考えを発表したり」「感想文や説明文を書く」機会を与え、そのおかげで、「自分の考えを他の人に説明したり、文章にする」という質問の肯定的回答率を5ポイント上げる。(カリキュラム改革関連)

○平成25年度の全国学力・学習状況調査において、朝読書だけでなく、毎日の図書館開放により読書の時間の確保し、考える力を高めさせ、考えを周りに発表する力を5ポイント高める。(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

○保護者・地域のアンケートの「人にやさしい学校・人にやさしい緑中生を育てる」「個性の違いを認め思いやりのある心を育てる」の肯定的回答を80%以上にするため、全校集会・道徳の授業を毎週行う。(マネジメント改革関連)

○「寄り添いながら厳しく」を生徒指導の基本とし、あいさつ・遅刻・服装指導に重点を置き、「規則正しい生活習慣を身に付けさせることがなされている」との保護者・地域のアンケートでの肯定的、回答が80%以上になるようにする。

○平成25年度末の校内調査において学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。(マネジメント改革関連)

○平成25年度の生徒アンケートで、本校から体罰をなくし、大阪の教育のモデルとなる活動を行い、活気ある学校を創りあげる。(マネジメント改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

○知・徳・体の調和のとれた生徒育成のため、さらなる部活動の活性化を進め、市を代表する成績を収めることにより、生徒の自尊心を高める。

○平成25年度よりさらに「保健室だより」を充実・保護者との連携を深め、保護者や生徒本人の意識を高める。聞き取り等による、意識調査を行う。(カリキュラム改革関連)

○平成25年度の「全国体力・運動能力、運動習慣調査」の合計得点において、全国平均点以上を維持する。(カリキュラム改革関連)

○平成25年度の各種検診後の受診率を上げる。視力検査の受診率を30%以上、耳鼻科検診の受診率を40%以上にする。(マネジメント改革関連)

3 本年度の自己評価結果の総括

【視点 学力の向上】

○平成25年度の全国学力・学習状況調査における国語・数学の平均正答率を全国平均より少し低い、維持することができた。(カリキュラム改革関連)

○平成25年度の全国学力・学習状況調査における家庭での学習に関する設問で、学校の宿題達成率を上げる事ができた。(マネジメント改革関連)

○25年度は授業において、「自分の考えを発表したり」「感想文や説明文を書く」機会を与え、そのおかげで、「自分の考えを他の人に説明したり、文章にする」という質問の肯定的回答率上げる

事ができた。(カリキュラム改革関連)

○平成25年度の全国学力・学習状況調査において、朝読書だけでなく、毎日の図書館開放により読書の時間の確保し、考える力を高めさせ、考えを周りに発表する力を高めた。(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

○保護者・地域のアンケートの「人にやさしい学校・人にやさしい緑中生を育てる」「個性の違いを認め思いやりのある心を育てる」の肯定的回答を80%以上を保ち、全校集会・道徳の授業を毎週行った。(マネジメント改革関連)

○「寄り添いながら厳しく」を生徒指導の基本とし、あいさつ・遅刻・服装指導に重点を置き、「規則正しい生活習慣を身に着けさせることがなされている」との保護者・地域のアンケートでの肯定的、回答が80%以上である。

○平成25年度末の校内調査において学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%である。(マネジメント改革関連)

○平成25年度の生徒アンケートで、本校から体罰をなくし、大阪の教育のモデルとなる活動を行い、活気ある学校になっている。(マネジメント改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

○知・徳・体の調和のとれた生徒育成のため、さらなる部活動の活性化を進め、市を代表する成績を収めることができ、生徒の自尊心を高めることができた。

○平成25年度よりさらに「保健室だより」を充実・保護者との連携を深め、保護者や生徒本人の意識を高める。聞き取り等による、意識調査を積極的に行った。(カリキュラム改革関連)

○平成25年度の「全国体力・運動能力、運動習慣調査」の合計得点において、全国平均点以上を維持した。(カリキュラム改革関連)

○平成25年度の各種検診後の受診率を上げる事が出来た。(マネジメント改革関連)

大阪市立緑中学校 平成25年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】 ○平成25年度の全国学力・学習状況調査における国語・数学の平均正答率を全国平均並みに維持する。(カリキュラム改革関連) ○平成25年度の全国学力・学習状況調査における家庭での学習に関する設問で、学校の宿題達成率を 5 ポイント上げる。(マネジメント改革関連) ○平成25年度は授業において、「自分の考えを発表したり」「感想文や説明文を書く」機会を与え、そのおかげで、「自分の考えを他の人に説明したり、文章にする」という質問の肯定的回答率を 5 ポイント上げる。(カリキュラム改革関連) ○平成25年度の全国学力・学習状況調査における朝読書だけでなく、毎日の図書館開放により読書の時間を確保し、考える力を高めさせ、考えを周りに発表する力を 5 ポイント高める。(カリキュラム改革関連)	A A B B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基礎学力の定着】 国語科・数学科・英語科における習熟度別授業やティームティーチング授業を充実させ、基礎学力の定着を図る。	A
指標 学校アンケートにおいて、「授業はわかりやすく楽しい」という肯定的回答が全学年で70%以上、総合で80%を上回るようにする。	
取組内容②【学習意欲の向上】 家庭学習の大切さ、特に復習の重要性を伝える啓発文を発行し、周知する。家庭学習を推奨する授業を展開する。	A
指標 学期末懇談の折に担任より保護者に配布し、定着を図る。授業では、家庭学習の成果を評価する機会(ノート点検や家庭学習チェック等)を積極的に設ける。	
取組内容③【考える力・発表する力の向上】 毎日の図書館開放により読書の時間を確保し、考える力を高めさせ、考えを周りに発表する力を高める。	A
指標 朝読書だけでなく、毎日の図書館開放により読書の時間の確保する。	
取組内容④【「教え合い」「学び合い」を取り入れた授業の展開】 授業内に「教え合い」「学び合う」時間を設定し、生徒間で意見を活発に交流させ、言語活動の充実を図る。	B
指標 各授業で2時間に1回以上は、「自分の考えを発表する機会を与える」、「生徒の間で話し合う活動を行わせる」授業を意識して取り入れる。	

<p>取組内容⑤【各教科】(国語)</p> <p>・前期は1年生、2年生において週4時間のうち2時間、少人数授業やチームティーチングを実施し、後期は1年生、3年生において、習熟度別授業、少人数授業、チームティーチングを実施し、基礎学力の定着を図る。</p> <p>・「自分の考えを他の人に説明したり、文章にしたりする」力を養う。</p>	A
<p>指標</p> <p>・定期的に小テストを行い、学習の定着度を細かく把握する。</p> <p>・課題・宿題の点検をその都度行い、学期に1回以上のノート点検を行う。</p> <p>・自分の考えを発表する機会を意識的に与え、学期に1回以上「感想文や説明文を書く」機会を持つ。</p>	
<p>取組内容⑥【各教科】(社会)</p> <p>小テストや作業プリントを使い、学習効果をあげる。</p> <p>ノートや提出物の点検を定期テストごとに細かく行う。</p> <p>資料集や地図帳等を活用し、読みとる力や思考力を育てる。</p>	B
<p>指標</p> <p>2時間に1回程度は自分の意見を発表する機会を与え、単元学習後は小テストを行う。</p>	
<p>取組内容⑦【各教科】(数学)</p> <p>習熟度別、少人数などの授業を行い、生徒が理解しやすい指導に努めるとともに、小テストや演習プリントなどを活用し、基礎学力の定着と向上を図る。</p>	A
<p>指標</p> <p>(1年) 定期テスト前ごとに、1回以上の少人数授業を実施する。</p> <p>(2年) 単元ごとに、2枚以上の演習プリントを用意し、学習させる。</p> <p>(3年) 単元ごとに、3回以上の小テストを実施する。</p>	
<p>取組内容⑧【各教科】(理科)</p> <p>実験、観察(演示も含め)も多く取り入れ、興味、関心をもたせる。</p>	B
<p>指標</p> <p>学期ごとに2回以上、実験・観察を行い、興味・関心を持たせられるように図る。</p>	
<p>取組内容⑨【各教科】(音楽)</p> <p>・音楽活動の楽しさを体験することによって、基礎的な表現の技能を身につけさせて、より豊かで美しい音楽表現を工夫させる。</p> <p>・生徒が興味・関心を持ち、意欲的に取り組めるよう教材を工夫する。</p>	B
<p>指標</p> <p>・毎時間の自己チェック、運指表や音楽用語などの掲示、学期に1回以上のノート点検など、きめ細かい指導で基礎の定着を図る。</p> <p>・学期に2回以上、全生徒にアンサンブル活動の発表の場を設け、お互いの演奏を聴き合わせ、表現の能力・音楽性を高めさせる。</p>	
<p>取組内容⑩【各教科】(美術)</p> <p>教材の精選をはかり、各学年の年間計画をもとに学習を進め、生徒の興味、関心を高めさせた。</p>	A
<p>指標</p> <p>基礎的な知識・技術を理解させて表現活動に活かし、創作することの喜びを体得させ、毎授業、計画表を3行書かせ、作品の自己分析をさせ、授業中1回以上意見を言いあい、各学期ごと1～3ぐらいお互いの作品を鑑賞しあえた。</p>	
<p>取組内容⑪【各教科】(保健体育)</p> <p>集合・整列などの集団行動を軸とした基礎的な学習態度の定着に努める。</p>	

<p>指標 基礎技能の習得を重視し、達成感を持たせ学習意欲を向上させる。</p> <p>◆運動への関心・意欲・態度において5つの項目において評価する。</p> <p>①各領域の運動に積極的に取り組んでいるか</p> <p>②公正な態度で取り組んでいるか。</p> <p>③互いに協力して取り組んでいるか。</p> <p>④自己の役割を果たしているか。</p> <p>⑤健康・安全に気を配っているか。</p> <p>◆運動の技能において、「十分満足できる」状況を（A）とする。</p> <p>「おおむね満足できる」状況を（B）とする。</p> <p>「努力を要する」状況を（C）とする。</p>	A
<p>取組内容⑫【各教科】(技術家庭)</p> <p>生活経験が乏しい傾向にあるので、説明は図や写真でイメージし易いように行う。実習では班活動を中心にして行い、ともに学びあう授業づくりを行う。また、実習教室は普段使わない教室なので、事前に入れて慣れさせる。</p> <p>調理実習では食中毒などの衛生面に関する予防のため、食材は前日又は当日にもってきてもらい、鮮度の良いものを使う。ケガ予防のため、包丁や火などの管理を徹底する。</p> <hr/> <p>指標 ・実習の時間を全体の授業時間の60%以上取り入れ、生活に役立てるよう授業計画を立てる。</p> <p>・実技テストを行い、基礎内容の定着を図る。</p> <p>・テスト後の度数分布で20%未満を全体の10%以下になるよう、学習内容の定着を図る。</p>	A
<p>取組内容⑬【各教科】(英語)</p> <p>・前半は1年生全クラス、全時間で少人数授業を展開し、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>・後半は2年生、3年生において、週4時間のうち2時間、習熟度別少人数授業を実施し、個に応じた教材を作成するなど教授法を工夫する。</p> <hr/> <p>指標 ・オーラルの時間を毎時間25%以上取り入れ、「聞く」「話す」の領域がほぼ50%となるように授業計画をたてる。</p> <p>・テスト後の度数分布で、30点以下を全体の10%以下にするようにする。</p>	B
<p>取組内容⑭【各教科】(特別支援教育)</p> <p>特別支援教育の充実を図ることにより、一人ひとりのニーズを把握し、自立に向けての可能性を最大限に伸ばすことをめざして、指導の内容と方法の創造に努めた。</p> <hr/> <p>指標 基本的生活習慣の定着に努め、自立心を養う。個々の生徒に応じた学習指導をすすめる。事前に漢字練習をおこない、週1回は、漢字テストや計算復習テストをおこなう。特別支援教育に対する地域・保護者、校内の理解と協力を得よう努めた。</p>	B
<p>取組内容⑮【各教科】(総合的な学習の時間)</p> <p>各行事や取組を通じて、生徒が主体性を持って学ぶ姿勢を育む。</p> <hr/> <p>指標 各学年の年間行事計画(1年:職業講話・一泊移住、2年:福祉体験・平和学習・障がい学習・大阪再発見、3年:進路学習・国際理解学習、全学年:文化祭・運動会・芸術鑑賞)に従い、行事や取組を全て滞りなく行う。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析

- ① 習熟度別授業や、少人数授業、ティームティーチングを行う前のアンケートに比べて、90 パーセント以上の生徒がよく解るようになったと回答し、平均正答率も上がっている。
- ② 家庭学習の大切さや、特に復習の大切さを伝える啓発文を発行し、家庭学習を推奨した。宿題やノート点検を積極的に行った。
- ③ 朝読書だけではなく、毎日の図書室開放を行い、さらに放課後学習も行った。
- ④ 各教科で「教え合い」「学び合い」を取り入れる授業を進めたが、進度に追われ、結果に結びつけることころまでは至っていない。
- ⑤ 週1回程度の漢字テストを行い、語彙力の定着に努めることができた。また、週末宿題を実施し、週に1回のノート点検を実施し、書く力の定着に努めた。自分の考えを発表する機会や、「感想文や説明文を書く」機会をさらに増やす必要がある。
- ⑥ 学習効果をあげるために小テストや作業プリントを工夫して授業に取り入れた。また、1・2年生は定期テストごと、3年生は単元ごとにノートや提出物の点検を行い、日ごろの学習状況の確認と基礎学力の定着に努めた。資料集や地図帳等を効果的に活用し、授業の中で生徒への問いかけ等を通じて、読解力や思考力の育成に努めた。今後は家庭学習の定着にむけて、授業内容や提出物を工夫したい。
- ⑦ 1年では、少人数授業を各定期テスト前に1～2回実施した。2年では、各章ごとに2～4枚の復習プリントを作成し、演習させた。3年では各章ごとに各3～6回の小テストを行った。どの学年とも、学力向上・定着の手立てと教科書の進度との兼ね合いに苦労したが、設定した指標を上回ることができた。
- ⑧ 教科書にある実験はおおむね行うことができ、演示実験も多く行った。生徒は積極的に取り組むことができ、実験の過程や結果に興味・関心を抱くことがおおむねできた。また、理科室に水槽や、科学系の本を置くなど、理科に対して興味・関心を抱くことができた。
- ⑨ 学期に 1～3 回のノート点検を行い、生徒の学習状況の把握に努めた。また毎時間の自己チェックにより、忘れ物をする生徒は全体のほぼ 1 割程度であったが、同じ生徒に何度も続く傾向があり粘り強い指導が必要である。また生徒が興味関心を持てるように教材を工夫したり、お互いの演奏を聴き合わせて表現力を高めるように取り組んだ。
- ⑩ 放課後の相談日を、さらに 1 回は増やし授業の欠席生徒などに対応した。授業では、作品の説明時、鑑賞時間を 5 分以上つくれた。さらに声かけをし、基礎技能を向上につとめた。
- ⑪ 毎回の授業において、集団行動を徹底した。体育委員を中心に集団行動を軸とした活動ができた。4 月に体力テストを実施し、自分の体力レベルを把握することで、バランスのよい体力づくりに取り組むよう意識づけをすることができた。基礎的な体力向上のため補強運動を取り入れた。
- ⑫ 実生活に則した内容を授業に取り入れ、興味や関心を強め、実習では生徒一人一人に細かなアドバイスをした。そのため、自力での作品の完成率が増えた。
- ⑬ 習熟度別少人数授業については、予定通り実施した。1 年生では 4 月からすべての時間、少人数で授業をしたので、基礎・基本がしっかり定着した。2・3 年生では個に応じた授業、オーラルを取り入れた授業が展開できた。
テストの度数分布において30点以下の人数が減少した。
- ⑭ 個々に応じた学習内容を、日々研究しながら進めている。基礎学力の定着や生活能力の向上

に今後も取り組んでいく。

- ⑮ 1年生:学校行事・学年行事も『ここまでできたら』という目標までできたと思う。ただ、2年生では、生徒自らが、次の行動を予測して動けるように指導したい。

2年生:福祉体験学習では、生徒が生き生きと活動している姿がみられ、一定の成果が見られた。体育大会では、クラス対抗全員リレーを行い、クラスの団結力が生まれた。文化祭では、クラス合唱、全体合唱を通じて、感動する心を培うことができた。

3年生に向けて、より主体的に取り組める集団育成を目指したい。

3年生:修学旅行でかなりの成果があった。できてない部分を課題に体育大会、文化祭と取り組み達成できた。協力しさりげなくサポートする集団になった。

また、進路学習でも自分の将来を見据えて、進路選択できるに至った。

次年度への改善点

- ・行事における時間調整や予算の確保に苦慮している。

大阪市立緑中学校 平成25年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>○保護者・地域のアンケートの「人にやさしい学校・人にやさしい緑中生を育てる」「個性の違いを認め思いやりのある心を育てる」の肯定的回答を80%以上にするため、全校集会・道徳の授業を毎週行う。(マネジメント改革関連)</p> <p>○「寄り添いながら厳しく」を生徒指導の基本とし、あいさつ・遅刻・服装指導に重点を置き、「規則正しい生活習慣を身に着けさせることがなされている」との保護者・地域のアンケートでの肯定的、回答が80%以上になるようにする。</p> <p>○平成25年度末の校内調査において学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。(マネジメント改革関連)</p> <p>○平成25年度の生徒アンケートで、本校から体罰をなくし、大阪の教育のモデルとなる活動を行い、活気ある学校を創りあげる。(マネジメント改革関連)</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【道徳的な判断力の醸成】 「人にやさしい学校・人にやさしい緑中生を育てる」「個性の違いを認め思いやりのある心を育てる」の肯定的回答を80%以上にするため、全校集会・道徳の授業を毎週行う。	B
指標 保護者・地域のアンケートので、肯定的回答が80%を超すように指導を続ける。	
取組内容②【教育相談の推進】 教育相談週間を設け、生徒の悩みや困っていることを細やかに聞き取り、問題がある場合には、速やかに解決し、生徒との信頼関係を確固たるものとする。	A
指標 学期に1回、教育相談を行う。	
取組内容③【キャリア教育の推進】 福祉体験活動を実施する。	A
指標 2年時に2日間、実施する。	
取組内容④【防災教育の推進】 年間指導計画に沿って防災に関する授業や集会を実施する。	A
指標 各学年、あるいは全体で、学期に1回行う。	
年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析	
【道徳的な判断力の醸成】 において、「人にやさしい学校・人にやさしい緑中生を育てる」「個性の違いを認め思いやりのある心を育てる」の肯定的回答を80%以上にするため、全校集会・道徳の授業を毎週行った。また、その様子を学校ホームページで紹介したことにより、いっそう保護者、地域の理解が深まった。	
【教育相談の推進】 において、学期に1回教育相談週間を設け、生徒の悩みや困っていることを細やかに聞き取り、問題がある場合には、速やかに解決し、生徒との信頼関係を確固たるものとし	

た。その成果から校内での非行、問題行動は徐々に減ってきている。しかし、厳しい家庭環境で生活している生徒もたくさんいることも事実である。今後とも生徒会活動や、部活動を中心とした生徒主導の教育活動に取り組み、現状に満足することなく、指導していきたい。

【キャリア教育の推進】において、2年時に2日間福祉体験活動を実施した。1 年では、次年度の福祉体験が単なる体験活動に終わらないよう、職業における責任を自覚できるようなキャリア学習の時間を設けた。

【防災教育の推進】において、年間指導計画に沿って防災に関する授業や集会を実施した。学校全体で、1学期、2 学期にそれぞれ1回防災訓練行った。また、総合の時間に防災学習を実施し、防災への意識向上に努めたが、まだまだ浸透できていない。

次年度への改善点

アンケート等において、100%の高回答を得ることは難しい。しかし、今後とも限りなく100%を目指していきたい。